

路線廃止・減便ストップ 市バス路線の充実を！

2025年12月9日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市会議員団を代表して前田あきら議員と赤田かつのり議員が一般質問に登壇しました。

- 質疑項目
1. 須磨区のバス路線廃止・減便について
 2. 子育て・教育の負担軽減と学費・給食の無償化について
 3. 物価高騰からくらしを守る施策について

神戸市は、須磨区内の市バス15路線を7路線へ大幅廃止と、運転士15人分に相当する運行本数を削減する計画案（2026年8月に実施）を公表しました。それにより、1本の市バスで行けていたものが、2本以上のバス乗継ぎや鉄道乗換えが必要になるなど、市民に負担と不便を強いることとなります。12月から

始まった地元自治会への説明会でも、反対の声が多数上がっています。

前田あきら議員は、市長選挙前に発表して広く市民や議会の意見を聞かず、選挙直後に、一方的な減便を公表したことを批判し、市バス路線の廃止・減便計画の撤回を求めました。

した後は、電話・メール・窓口等での個別相談に丁寧に対応していきたい。

前田議員：路線見直しは地元や利用者の意見を十分に反映すべきものだ。市民や利用者から見直しの意見があれ

前田あきら議員が 一般質問



ば、運行本数の削減にこだわることなく計画を修正するのか。

城南局長：12月からは地域の代表の方々の意見を反映し、それが成案になる。その後、一般の皆様からもご意見を聞き、より多くの利用につながる意見などは取り入れていきたい。

前田議員：おおむね1日あたり153本の減便計画だ。例えば、北須磨団地は、3路線のうち71系統を廃止、74系統はラッシュ時のみになる。月見山は、バス停がなくなり、バス空白地になる。高倉台や多井畑は、区役所への直接路

線がなくなり、須磨駅を結ぶ便も減便される。板宿・鷹取周辺エリアは、4路線が廃止・短絡され、対象路線が半減する。若草や落合団地も経由便数が減便される。本当に受け入れ難いものだ。今回廃止・減便される路線には、小・中学生が遠距離通学で使っている便も含まれ、減便で待ち時間が増えて、児童・生徒の安全に影響があっては困るという声が教育現場から上がっている。こういった声を聞いて路線廃止・減便計画は撤回し、本当に市民に求められる路線を維持するべきだ。

答弁ダイジェスト

城南交通局長：市バス事業は危機的な経営状況で、現状の路線・運行本数の維持は困難だ。今後は2月を目途に、ホームページやバス停への掲示等で周知する。周知・公表

「神戸市営交通事業 経営計画2030(案)」へ市民意見をお寄せください

交通局は今後5年間の方針を示し、2024年の運賃値上げ・バス路線の縮小で「単年度収支は均衡レベルまで回復した」としつつも、さらなる「増収策」として「運賃改定（値上げ）の検討」と「経費削減策」として「(バス路線の)運行費用の削減」を打ち出しています。

市バス路線を守り充実へ、みなさんの声を、「市民意見募集」にお寄せください。

- ・募集期間：2026年1月9日(金)～2月9日(月)
- ・閲覧方法：ホームページ又は各区役所支所や市政情報室など

- ・提出方法：氏名と住所を記入して下記まで

件名「意見募集」宛先「神戸市交通局経営企画課」

メール：kotsu-zaimu@city.kobe.lg.jp（テキスト形式で）
FAX：(078)984-0201 郵送：下記住所まで

- ・問い合わせ先：神戸市交通局経営企画課
〒652-0855 兵庫区御崎町1-2-1 御崎ビル3階 078-984-0108



ホームページ



意見提出フォーム

かくれ教育費負担ゼロへ 学校給食・学校徴収金の無償化を

物価高騰は、修学旅行や学校行事など教育への影響も広がり、子育て世帯の家計も圧迫しています。前田議員は、臨時議会の開催を求め、福祉や保育、交通を始め事業者への物価高対策とともに、国待ちにせず早期に小・中学校の給食を無償化すべきと質しま

した。また、前田議員は、学校指定の制服やかばん・体操服の購入費、修学旅行や教材費など、義務教育に必要な費用は、各家庭に負担を求めず、就学援助などの収入を限定するものではなく、全世帯に支援すべきと求めました。
昨年12月25日と26日にひら

かれた臨時市会では、小学校給食の無償化予算が可決されました。日本共産党神戸市会議員団は、小学校給食だけにとどまらず、給食の質と量を

低下させず、さらに中学校給食の無償化など、神戸市が財政的支援をして早期に実施するよう引き続き求めています。

答弁ダイジェスト

福本教育長：これまでも食料高騰分の公費負担や中学校給食費の半額助成をおこなってきた。今後は国の制度設計に合わせて準備を進め、まずは小学校給食の無償化に取り

組みたい。

前田議員：直ちに補正予算を編成し、無償化を早期に実施すべきだ。あわせて不登校やアレルギー対応で給食停止のご家庭に給食費相当額を支給していただきたい。

エレベーターやホーム柵、無人改札の解消へ 垂水駅の安全性と利便性の向上に JR西日本に強く働きかけよ

質疑項目

1. JR垂水駅の安全性と利便性の向上について
2. 保健所の整備について

JR垂水駅は高架になっており、上り線下り線を1本のホームで対応しています。2020年3月には、視覚特別支援学校に勤務する弱視の教員が誤って転落し亡くなる重大事故が発生しました。赤田議員は、駅東口のエレベーター

設置や転落防止用のホーム柵設置にとどまることなく、現在無人になっている東口改札の係員を常時配置に戻し、高齢者や障がい者が安心して利用できるようにJR西日本に強く働きかけるべきと求めました。

答弁ダイジェスト

今西副市長：JR垂水駅は、転落を検知するホーム安全スクリーンを設置している。東口のエレベーター設置は駅の構造上ハードルが高いため、他の改札のエレベーターをご利用いただきたいとJRから聞いている。地元からは東口に2経路目のバリアフリー経路を設けてほしいという要望が多く、JRに整備を要望している。市は垂水駅を「重点要望駅」に位置づけ、毎年JRに対し直接要望書を提出しており、人的対応を含むソフト面の向上も引き続き働きかけていきたい。

赤田議員：垂水駅は狭いホームが1本だけで、人混みも多く、振り返ると2005年と2012年にも転落死亡事故が発生している。身体も目も不自由な方からは「狭くて歩きにくく怖い」「改札からホームへの階段が大きな負担」という声を聞いている。終日東口に駅員が不在で、インターホンを押して呼び出し、駅員が来るまで20分待たされるという状況だ。毎年要望しているなら直接（障がい者の方々と）面会して要望すべきだ。
今西副市長：私は直接聞いたことはないが、福祉局と関係部局は聞いていると思う。



赤田かつのり議員が一般質問

東口は区役所等もある重要なところなので、強く働きかけていきたい。

赤田議員：JRが2005年度に垂水駅の乗降客の安全を守るホーム要員を廃止するなどしてきた結果が今の東口だ。垂水駅前には、高層タワマンマンションが建ち、周辺には市営住宅跡地を売却して建ったマンションで周辺の人口も増え公共施設・商業施設も集中している。市長自らが垂水駅に出向いて改善を求めるべきだ。

今西副市長：垂水駅東口はまちづくりが進んでいるエリ

アで、障がい者や高齢者など様々な方々が利用するため、安全性を確保した駅は大変重要な課題だ。JRへの要望書は市長名で出し、街が変わりつつある状況も適切に伝えていく。

赤田議員：駅周辺に人を集中させている市の施策が影響している。三宮でもバスターミナルや新駅ビルに市が大金を投じ、JRに至れり尽くせりの投資をおこなっている。JRに対して強く安全性を求めることが市の責務だ。強く働きかけるべきだ。